

先週の説教要旨

『受胎告知』井上隆晶牧師
イザヤ 7: 10~14、ルカ 1: 26~38

①【伝統的なマリア論とは】ナザレという町のおとめマリアのもとに天使ガブリエルがやってきてこういいました。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」(ルカ 1: 28) この挨拶を聞いたマリアは戸惑い考え込みます。するとガブリエルは「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みを受けた。あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名づけなさい。」(31節) といいます。その時のマリアはまだ15歳くらいだったといいます。マリアはヨセフと婚約していましたが、まだ結婚していませんでしたので「どうしてそのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知らないのに」というと、ガブリエルは「聖霊(神の霊)があなたに降り、いと高き方(神)の力があなたを包む。だから生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。」(1: 35) と説明します。

人間は救いを必要としており、一方神は、人と共に生き死ぬための肉体を必要としていました。幼いマリアがそのための身体を提供したのです。彼女の中で神と人が初めて一体になり、イエス様が生まれました。マリアは単なる人間を生んだわけではありません。マリアの胎内に宿ったのは神です。そこで431年のエフェソ公会議ではマリアに「神の母」(テオトコス)という称号をつけ、451年のカルケドン公会議ではキリストの降誕についてまとめました。「神性によれば万世の前に聖なる父より生まれ、人間性によれば、我らのために、また我らの救いのために、世の終わりに、神の母(テオトコス)である処女マリヤより生まれたも

う。」この後、カトリック教会は「マリアには原罪がない(無原罪)」、「マリアは永遠の処女である」、「マリアは肉体と魂が共に昇天した(被昇天)」、「祈りの仲介者である」、「教会の母である」といった教えを加えてゆきました。正教会もマリアの無原罪は認めませんが、その他の教えをそのまま信じています。マリアは礼拝される者ではなく、尊敬される者である、ということだけは分かります。

②【お言葉どおりになりますように】ガブリエルのお告げに対してマリアはすぐに「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身になりますように」(38節) といってその身を献げました。マリアが神の言葉を受け入れた時、彼女の中に神の子キリストが生まれました。マリアの上に起こったことはすべての人の上に起こることなのです。私たちが神の言葉を信じて受け入れるとき、聖霊の働きによって私たちの中に霊的にキリストが生まれるのです。しかし献身というのは楽ではありません。神のみ心は時として厳しいものだからです。従いたくないとも言われるからです。だからこのマリアの言葉は十字架の匂いがします。私のマリアに対するイメージは、美しく清い聖母というものではなく、忍耐強い沈黙の母のイメージなのです。渡辺和子シスターが「若い時に考えていた勇氣は、新しいことにチャレンジし、何かを成し遂げる勇氣でした。しかし歳をとってくると、受け入れがたいものを受け入れてゆく勇氣というものが必要であることを教えられています。」といっています。

③【人は苦しむことによってキリストがその内に出来上がる】『ルターはマリアを崇敬していたか?』という題名の本を読みました。ルターは生涯にわたってマリアを尊敬していたようです。そしてキリスト教生活の模範としていました。こんなことを書いています。「マリアは信仰、謙遜、慎みという三つの徳の

週報

日本キリスト教団 都島教会

伝道所設立1957年12月1日 教会設立2001年12月2日
〒534-0012 大阪市都島区御幸町2-6-17

TEL06-6922-1120 FAX06-6922-1120

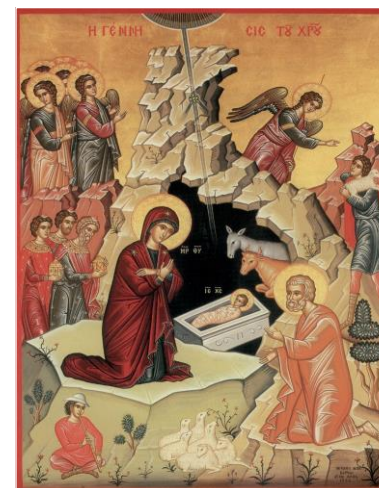
Eメールアドレス: miyakoch@eagle.ocn.ne.jp

ホームページアドレス: <https://miyako.jima-church1.com>

郵便振替00920-4-1442 日本基督教団都島伝道所

主任牧師 井上隆晶

2024年12月15日 No.1798



《降誕》

都島教会の2024年度の宣教方針

標語 《会堂建築の準備をしよう》

聖句 「イエス・キリストという既に据えられている土台を無視して、だれもほかの土台を据えることはできません。」(Iコリント3:11)

2024年度の目標

- 1 毎週礼拝を守り、礼拝出席平均27名を目指します。
- 2 一年間に一人を礼拝にお誘いします。
- 3 会堂建築のための具体的な準備をします。
- 4 皆で教会を建てる意識を育てます。